

国際スケート連盟コミュニケーション第 2014 号

シングルおよびペア・スケートティング

第 56 回 ISU 総会で承認された一般規程，特別規程および技術規程の変更点

I. 一般規程 第121条 第3項

任命された役員に適用される制限：

c) フィギュア・スケートティング部門の技術委員会のメンバーは，ISU選手権大会，シニア・グランプリ・イベントおよびファイナル，ISU世界国別対抗戦，オリンピック冬季大会において，他の種目で活動できない。

II. 特別規程

第350条 スタートのための呼び出し 第2項

各グループの最初に滑走する競技者に対し，開始の姿勢を取るまでに追加で30秒の時間を与える部分は削除する。

第353条 第1項 n) 転倒部分

シニアのシングル・スケートティングでは転倒を重ねると減点が増す。1回目，2回目の転倒ごとに：-1.0 3回目，4回目の転倒ごとに：-2.0 5回目，それ以上の転倒ごとに：-3.0

第353条 第4項 結果の公表 c)

結果の公表におけるジャッジの匿名性は取り止める。

第415条および第416条 テクニカル・スペシャリストおよびデータ&リプレイ・オペレーターの年齢制限

テクニカル・スペシャリストおよびデータ&リプレイ・オペレーターの年齢制限の上限を，70歳に達してはならない，に延長する。

第431条 第2項 ラウンド・テーブル・ディスカッション

すべての国際イベントにおいてラウンド・テーブル・ディスカッションにおける競技映像は必須である。

III. 技術規程

第502条 滑走時間 第1項

シニアおよびジュニアのショート・プログラムの滑走時間は2分40秒プラス／マイナス10秒である。したがって，プログラムの中央（規程第353条h）を参照のことは1分20秒である。

第504条 第3項a) 演技構成点（プログラム・コンポーネンツ）の定義

以下のように改訂する。

スケーター／ペア／カップルの演技全体を5つのプログラム・コンポーネンツにより採点する。5つのプログラム・コンポーネンツとは，スケートティング・スキル，トランジション，パフォーマンス，コンポジション，音楽の解釈／タイミング（アイス・ダンス）のことである。ペア・スケートティングおよびアイス・ダンスでは，基準に達していることが両スケーターにより同程度に示されなければならない。

スケーティング・スキル

スケーティング全体の正確さと確実さにより定義される。すなわちエッジ・コントロールや氷上における流れのことである。これらはスケーティングの諸手段（エッジ，ステップ，ターン等）を自在に駆使すること，技術が明確であること，さらに無駄な力なく加速しスピードを変化させることにより示される。スケーティング・スキルを評価する際には以下を考慮しなければならない。

- ・ 深いエッジ，ステップおよびターンの利用
- ・ バランス，リズムカルな膝の動き，足運びの正確さ
- ・ 流れと滑り
- ・ パワー，スピード，加減速の多様な利用
- ・ あらゆる方向へのスケーティングの利用
- ・ 片足でのスケーティングの利用

トランジション

すべての要素をつなぐ，複雑なフットワーク，ポジション，動作，ホールドが多様であることと，これらをはっきりとした目的を持って用いることである。トランジションを評価する際には以下を考慮しなければならない。

- ・ ある要素から別の要素への動作の連続性（全種目）
- ・ 多様さ（アイス・ダンスにおけるホールドの多様さを含む）
- ・ 難しさ
- ・ 質

パフォーマンス

音楽と構成の意図を伝える際にスケーター／ペア／カップルの体の動き，感情の表現，知性の表出が十分にあること。パフォーマンスを評価する際には以下を考慮しなければならない。

- ・ 体の動き，感情の表現，知性の表出および投射
- ・ 身のこなしと動作の明確さ
- ・ 動作とエネルギーの多様さとめりはり
- ・ 個性／人柄
- ・ ユニゾンと「一体性」（ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス）
- ・ パートナー間の空間的認識－スケーター間の距離の調整，ホールド変更の手際（ペア・スケーティングおよびアイス・ダンス）

コンポジション（構成）

計画的，発展的，および／または独創的な各種動作の構成のことで，音楽のフレーズ，空間，パターン，構造の諸原則に従う。コンポジションを評価する際には以下を考慮しなければならない。

- ・ 目的（アイデア，コンセプト，ビジョン，雰囲気）
- ・ パターン／氷面の十分な利用
- ・ 空間の多次元的な利用と動作のデザイン
- ・ フレージングと形式（動作および部分が音楽のフレーズに合っていること）
- ・ 構成の独創性

音楽の解釈（インタープリテーション）／タイミング（アイス・ダンス）

音楽のリズム，特徴，内容を個性的に，創造的に，偽りなく，氷上の演技へ移し換えること。音楽の解釈（／タイミング）を評価する際には以下を考慮しなければならない。

- ・ 音楽（タイミング）にあった動作とステップ
- ・ 音楽の特徴／感情の表現，およびはっきりと識別できるときにはリズムの表現
- ・ 音楽の細部とニュアンスを反映するフィネス*の利用
- ・ 音楽の特徴とリズムを反映させたスケーター同士の関係（ペア・スケートイング，アイス・ダンス）
- ・ ショート・ダンスでは主としてリズムカルなビートによって滑走すること，フリー・ダンスではビートに合わせた滑走とメロディに合わせた滑走のバランスがよいこと。

* フィネスとは，スケーターによる音楽の細部とニュアンスの動作を通じた技巧的かつ洗練された取り扱いのことである。これはスケーターに固有のものであり，音楽および構成に対する内部の感情を示している。ニュアンスとは，作曲家や奏者が音楽の音の強さやテンポや強弱に繊細な変化をもたらすための個性的な手法である。

第513条 第2項 フリー・スケートイングにおける滑走順の抽選

ISUイベント，オリンピック冬季大会，ユースオリンピック冬季大会では，最終の2グループはそれぞれ2つのサブグループ（シングルではグループ内上位3名＋下位3名，ペアではグループ内上位2名＋下位2名，アイス・ダンスではグループ内上位3名＋下位2名）に分けられ，各サブグループの中で抽選を行う。ショート競技部分における最上位のスケーターは，後半のサブグループで滑走する。

第515条 開始の順延および再開の許可 第6項（新規）

競技者が，コールされてから開始の姿勢を取るまでの間に負傷したり，競技者あるいは競技者の用具に関連した不運な条件によって滑走が妨げられたりする場合には，規程第350条第2項を適用する。その不運な条件を解消するための時間が60秒では不十分な場合には，レフェリーは競技者に対し最大3分間の時間を与えるものとする。この場合，レフェリーは，上記第3項b)による減点を適用する。

第610条 スピン・コンビネーションの定義

スピン中に少なくとも2種類の基本姿勢を含み，各姿勢で2回転しなければならない。最大価値を獲得するためには，スピン・コンビネーションは3種類の基本姿勢をすべて含まなければならない。基本姿勢が2種類のみのスピン・コンビネーションは記号“V”が付され採点される。

第611条 第2項 シニア女子のショート・プログラムの要素

e) レイバックまたはサイドウェイズ・リーニング・スピンあるいは足換え無しのシット／キャメル・スピン

第611条 第3項 ジュニア女子のショート・プログラムの要素

2016-2017

e) レイバックまたはサイドウェイズ・リーニング・スピンあるいは足換え無しのシット・スピン

第611条 第4項 ジャンプ・コンビネーション部分

最後の部分を以下のように改訂する。

c) 同一のジャンプがソロ・ジャンプとして行われ，かつジャンプ・コンビネーションの一部としても行われた場合，繰り返されたジャンプのうち後に行われたものはカウントされない（後に行われたものがジャンプ・コンビネーションの一部として行われた場合，繰り返し要件に違反する個々のジャンプのみがカウントされない）。

余分なジャンプが行われた場合，要件に違反する個々のジャンプのみが無価値となる。実施順により余分なジャンプとみなす。

第611条 第4項 スピン部分

d)を以下のように改訂する。

d) フライング・スピン：

シニア：着氷姿勢が単一姿勢のスピンのものとは異なるあらゆるタイプのフライング・スピンのみが許される。

ジュニア：規定された種類のフライング・スピンのみが許される。

シニアおよびジュニア：ステップ・オーバーに関してはジャッジがGOEで考慮しなければならない。空中姿勢と異なっても良いが、着氷した姿勢で最低8回転しなければならない。踏み切り前に氷上で回転することは許されない。要求される8回転は、着氷姿勢のどのような変形姿勢で行ってもよい。

e) 女子一足換え無しのシット/キャメル・スピン：この姿勢で最低8回転しなければならない。

第612条 第2項 繰り返し部分

最後の文章を変更する。

余分なジャンプおよびジャンプ要素：

余分なジャンプが行われた場合、要件に違反する個々のジャンプのみが無価値となる。実施順により余分なジャンプとみなす。

第619条 ソロ・スピン・コンビネーション部分

以下のように改訂する。

両パートナーとも、スピン中に少なくとも2種類の基本姿勢を含み、各姿勢で2回転しなければならない。最大価値を獲得するためには、両パートナーとも、3種類の基本姿勢をスピン・コンビネーションに含まなければならない。ソロ・スピン・コンビネーションはジャンプから開始してもよい。

第619条 ペア・スピン・コンビネーション部分

以下のように改訂する。

両パートナーとも、スピン中に少なくとも2種類の基本姿勢を含み、各姿勢で2回転しなければならない。最大価値を獲得するためには、両パートナーとも、3種類の基本姿勢をスピン・コンビネーションに含まなければならない。ペア・スピン・コンビネーションでは、両パートナーとも少なくとも1回の足換えを含まなければならない。両パートナーによる足換えあるいは姿勢変更が無い場合には、その要素は無価値となる。

第620条 第3項 ペア、ジュニアのショート・プログラムの要素

以下のように改訂する。

2016-2017

a) 任意のラッソー・リフト踏み切り（グループ5）

c) ダブルあるいはトリブルのトウ・ループまたはフリップ/ルッツ・スロウ・ジャンプ

第621条 第5項（旧4項） ペア・フリー・スケーティングの要素

ソロ・ジャンプ、ジャンプ・コンビネーション、ジャンプ・シーケンス部分

以下を最後に追加する。

余分なジャンプが行われた場合、要件に違反する個々のジャンプのみが無価値となる。実施順により余分なジャンプとみなす。

トゥブペーゲン

2016年6月15日

ISU 会長 Jan Dijkema

ローザンヌ

日本語訳： 2016年6月27日 第1版

ISU 専務理事 Fredi Schmid